

特別展

とやまの船と 船大工

— 船が支えた人びとの暮らし —



平成27年 **10月16日**(金)~**11月8日**(日)

氷見市立博物館 特別展示室 午前9時~午後5時

休館日 10月19日(月)、10月26日(月)、11月2日(月)

資料解説会 10月17日(土) 午後2時より〈参加自由〉

会期中の10月24日(土)と11月7日(土)の両日、
氷見市文化財センター(氷見市中田・旧女良小学校)で
収蔵・展示している和船および漁撈用具を一般公開します。

観覧
無料

人びとのくらしを支えた船と船大工

平成 27 年 3 月、氷見市立博物館が所蔵する漁撈用具 2,853 点が、「氷見及び周辺地域の漁撈用具」として国の登録有形民俗文化財となりました。今回は、その登録を記念して、地域の漁撈を支えた船と船大工をテーマとした特別展を開催します。

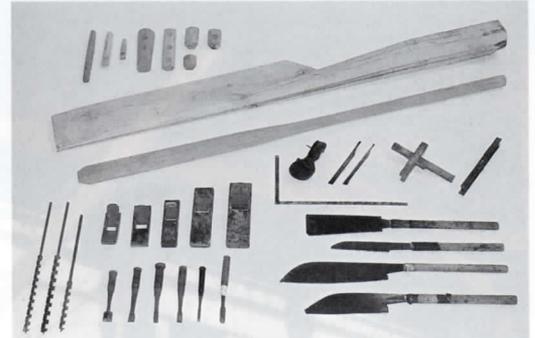
史料のうえでは近世初頭にさかのぼる氷見の定置網漁をはじめ、豊かな漁場である富山湾では古くから様々な漁撈が営まれてきました。また、実際の漁撈を担ったのはドブネやテント、カンコといった多様な木造船です。さらに、川や潟、湿田地帯でも船（舟）は人びとのくらしに欠かせないものでした。加えて、それら船（舟）の建造を専門に担ってきた船大工と、彼らが持つ造船技術の存在を忘れるわけにはいきません。

ところが現在では、FRP（繊維強化プラスチック）など新素材の普及や需要の変化などによって、木造船は人びとの生活の場からその姿を消していき、縄文時代の丸木舟以来さまざまに変遷しながら伝承されてきた日本固有の造船技術は失われつつあります。

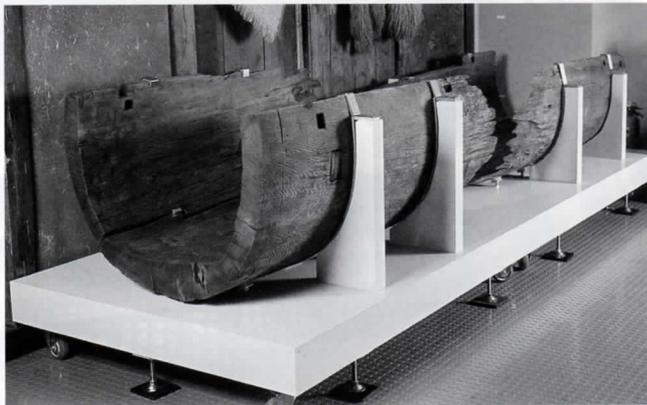
この特別展では、これまでの当館の調査成果を広く公開し、富山県内の海・川・潟・田の船（舟）とその歴史を概観するほか、豊富な写真や図面、実物資料を通して、船と船大工が支えた人びとのくらしの有り様を紹介します。



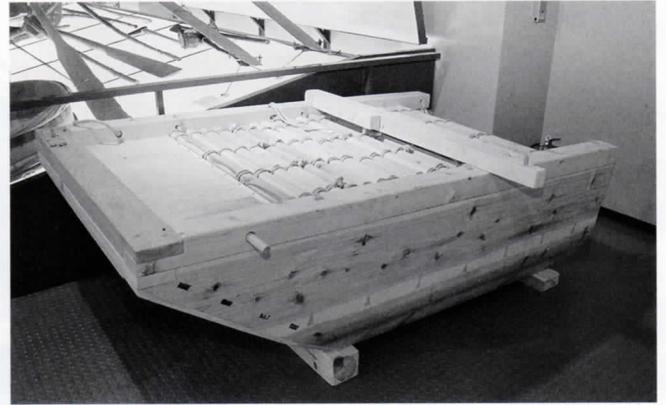
船大工用具
(国登録有形民俗文化財)



船大工用具及び未成品
(国登録有形民俗文化財)



氷見市鞍川D遺跡出土丸木舟（平安時代末頃）



ドブネ船尾部模型（国登録有形民俗文化財）

○会期中の10月24日（土）・11月7日（土）の両日は、氷見市文化財センター（氷見市中田645番地・旧女良小学校）で収蔵している和船及び漁撈用具を一般公開します。時間は午前9時から午後4時30分まで、観覧無料です。

氷見市立博物館

〒935-0016 富山県氷見市本町4番9号

TEL 0766-74-8231

FAX 0766-74-5520

E-mail : hakubutsukan@city.himi.lg.jp

URL : <http://www.city.himi.toyama.jp/~60510/>

●交通機関

鉄 道 / JR氷見線氷見駅下車、北西へ500m徒歩7分。

バ ス / 高岡駅前から加越能交通バス氷見方面行、
「氷見市民会館前」下車、徒歩1分

自動車 / 能越自動車道氷見インターから東に3km。

●氷見市立博物館は氷見市民会館に隣接する、氷見市教育文化センター内にあります。

